

# 国語科学習指導案

活動場所	本校舎 2 階	2 年 4 組 教室
生徒数	2 年 4 組	男子 1 6 名 計 3 2 名 女子 1 6 名
指導者	教諭	南 竹 琴 美

## 1 教材名

『対話を考える』平田オリザ

## 2 教材について

現代社会は情報化が進み、価値観の多様化した社会である。その中において、自分の意見や考えを求められる場面が数多く存在する。その際、自分の意見や考えを確かな根拠や理由をもって分かりやすく説明することが求められる。しかし、中学生の現状として、仲の良い友達や家族以外と交流することが少なく、根拠を明確にして自分の意見や考えを述べる機会そのものが少ない。また、自分の意見を主張することはできても理由を挙げられなかったり、根拠に乏しかったりするなど、相手意識が欠如している様子が見られる。

本教材は、生活の中での「対話」の意義やあり方について考えさせようとするものである。日常の話し言葉がどのようなものなのか新たな角度で見つめ直すことができるため、比較的生徒にとっても興味深いテーマの文であると考えられる。筆者の主張に触れさせることで日常を振り返り、自分の考えをまとめるのに適した教材である。

本学級の生徒達は、明るく元気があり、授業態度も良好である。しかし、授業中の自発的発表はやや少なく、意見も直感的な意見になりがちで、熟考した結果の意見がなかなか出てこない。書く活動においても個人差があり、課題を的確に理解し的確に書き進める生徒がいる反面、何をどう書けばいいのか分からず活動が停滞している生徒も見られる。また、理由や根拠が不明瞭なままに自分の考えや意見だけを述べたり、教材で学んだことを生かせず、論旨から反れた考えを述べる生徒が多い。

そこで、本教材の学習においては、まず読むことを通して、論理的・説明的な文章に対する自分なりの考えや意見を表現する能力を育成する活動を行う。その際、単に考えや意見だけを述べるのではなく、筆者の主張を踏まえ、具体的な体験と結びつけて考えがまとめられるようにする。具体的には、教材文から「対話」についての筆者の考えを読み取ったあと、一つのテーマのもと、「会話」、「ディベート」と「対話」でのやりとりのモデルを作る。それらを通じて「対話」について考えたことを体験を踏まえて文章にまとめる。そうすることで、教材から得られた知識を体験と関連付けて書く力を高めていきたい。

## 3 教材の学習目標

「対話」についての理解を深めるとともに、筆者の主張をとらえ、自分の考えを具体例を

挙げて書くことができる。

#### 4 教材の評価規準

学習活動における 具体的な評価規準	想定される生徒の学習状況と手だて	
	A	「十分満足できる」と想定した生徒の状況
	C	「努力を要する」と判断した生徒への手だて
ア 国語への関心・意欲・態度		
① 日常の言語生活を振り返り、「対話」の意義とあり方を考えようとしている。	A	「会話」と「対話」という観点から日常の言語生活を振り返るとともに、言語に対する考えを深めようとしている。
	C	「対話」の必要な場面について、「会話」との違いを考えさせる。
イ 書く能力		
① 本文で述べられている事柄を総合して、自分の意見や考えを書いている。	A	本文で述べられている事柄を正確におさえ、テーマについて自分の考えを書くことができる。
	C	筆者の主張を指摘したり、キーワードを確認させたりと適宜助言を行いながら自分の意見をまとめさせる。
ウ 読む能力		
① 「会話」と「対話」の違いや、「対話」の重要性を理解することができる。	A	キーワードを正確にとらえ、内容を要約し、「対話」や「会話」の違いや重要性を踏まえて説明できる。
	C	キーワードを指摘し、その語句を用いて表現させたり、適語を補充させたりしながら要約させる。
② 筆者の論の構成や展開、記述の工夫などに気を付けながら読んでいる。	A	筆者の主張を文の構成や展開をもとに考えるとともに、記述の工夫などを自らの文章表現に生かすことができる。
	C	全体の構成を、例示の仕方や内容から理解させる。
エ 言語についての知識・理解・技能		
① 「会話」と「対話」で用いられる表現や語句の違いを理解し、日常生活に生かしている。	A	「会話」と「対話」のそれぞれにふさわしい表現の仕方について、その根拠を理解し、日常の言語生活に生かすことができる。
	C	本文に即して、相手や目的によって、言葉遣いに違いがあることを確かめさせる。

#### 5 教材の学習及び評価計画

時間	学習の流れ	評価項目	評価方法
1	○題名から「対話」とはどのようなものか想起する。 ○全文を読んで、意味段落に分け、小見出しをつける。	ウー① エー①	ノート ワークシート 自己評価
2	○第一段落を読み、「対話」と「会話」の違いについてとらえ、要約する。	ウー① エー①	ワークシート 観察、自己評価
3	○第二段落を読み、これからの社会を生きていくうえで、なぜ「対話」が必要とされるのか筆者の主張からとらえ、要約する。	アー① ウー②	ワークシート 観察 自己評価
4	○「会話」、「ディベート」と「対話」の違いをとらえ、それぞれのモデルを作る。	アー① エー①	ワークシート 観察、自己評価
5 (本時)	○「会話」、「ディベート」と「対話」のモデルの発表を行う。 ○対話とはどういうものかを踏まえ、筆者の主張について考えたことをまとめる。	アー① イー① エー①	ワークシート 観察、自己評価

#### 6 本時の実際（5／5）

##### (1) 学習目標

「会話」、「ディベート」、「対話」の違いをとらえ、「対話」とは何かを理解し、「対話」について感じたことを文章にまとめることができる。

##### (2) 授業設計の視点

ア 書くための学び方を身に付けさせる指導の工夫

生徒が主体的に表現できるようになるための基礎として、読解過程において書く活動を取り入れた。本教材は説明的文章である。意味段落に分けさせ、要約を行わせることで、全体の構成の把握させる。そして、より正確に読み取らせるために、キーワードに注目させてまとめさせる。このような活動を通して内容を正確に把握することができ、主体的に表現するための基礎作りができるようになる。

本時では、まとめとして「対話」について考えたことを200字～300字程度の文章にまとめさせるが、前時までの書く活動を踏まえた主体的な表現活動ができるよう図りたい。

#### イ 書くための課題発見・問題解決能力を培う基盤となる学習指導の工夫

教材のまとめとして自分の意見を書く活動を行うが、何を書いたらよいか分からない生徒には、授業の内容を再度振り返りながら要点を示し、テーマに気付かせるようにしたい。

本時では、「対話」について考えたことを200字～300字程度でまとめさせる。そのため、「対話」について要点を踏まえることができている場合は、書く活動がスムーズに行えないと考えられる。そこで、そのような生徒には、授業の前半に行う「会話」、「ディベート」と「対話」の違いを確認させる活動を振り返らせ、自分の考えが導き出せるようにしていきたい。

#### ウ 書く活動を取り入れることによる基礎・基本定着の手だて

基礎・基本を身につけさせるために書く活動に重点を置いているが、書くことが苦手な生徒もいる。そのような生徒には、机間指導を通してキーワードや要点等を示すなど働きかけを行っていくが、どうしても書き始められない生徒もいると考えられる。作文が苦手な生徒は、書き出しで悩んだり、展開をどうしてもいい分からなかったりすることが多い。そこで、全く手を付けられない生徒用に、書き出しや展開をあらかじめ記入したワークシートを用意したい。

### (3) 授業の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点と評価（◆は評価項目）
導 入	2分 一斉	1 前時の学習を想起する。	○ ノートやワークシートで筆者の主張を確認する。
	2分	2 学習目標を確認する。  「会話」、「ディベート」、 「対話」の違いを具体的に	○ 黒板に学習目標を提示したあと、学習の進め方を確認する。

		とらえ，筆者の主張について考えたことをまとめよう。	
展 開	18分 グループ	3 前時に作った「会話」，「ディベート」，「対話」のモデルを発表する。	<p>○ 前時に記入した会話や対話，ディベートの広幅用紙を黒板に張り，実際に会話の様子をグループごとに発表させる。</p> <p>○ 「会話」「対話」「ディベート」の違いを確認させる。</p> <p>「対話」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他人の意見を聞くこと</li> <li>・自分の意見や価値観を表明し，相手の価値観にふれることで新しい価値観が生まれること</li> </ul> <p>「会話」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる自己紹介</li> <li>・自分の意見を一方的に説明すること</li> <li>・似たような価値観をもつ仲間内での合意や意思の疎通</li> </ul> <p>「ディベート」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を表明して相手を自分と同意見にすること</li> </ul> <p>◆ 発表を通じて，「対話」と「会話」，「ディベート」の違いを理解することができたか。</p>
	20分 個人	4 筆者の主張について考えたことをまとめる。	<p>○ 「対話」の要点が押さえられているか確認する。</p> <p>-----〈視点イ，ウ〉-----</p> <p>書き出せない生徒には机間指導を行い，ポイントを指導する。それでも全く手をつけられない生徒には書き出しや展開などをあらかじめ記入したたワークシートを渡し，自分の考えをまとめさせる手立てを行う。</p>
	5分	5 まとめた文章を交流する。	<p>◆ 「対話」とはどのようなものかを正確にとらえ，筆者の主張を踏まえて自分の考えをまとめることができたか。</p>

	グループ ↓ 一斉		<input type="radio"/> グループで感想を交流させる。 <input type="radio"/> 数人に発表させる。
終 末	3分	6 本時の学習のまとめをし、 自己評価を行う。	<input type="radio"/> 本時の学習を振り返らせる。 <input type="radio"/> 自己評価カードに記入させる。